| | | | 山木が自垤季竿及び焼竹値 | | | | | | |
|------|---------|---|---|--|--|--|--|--|--|
| 単位:㎜ | 五大 | 1-2-3-2 | | | | | | | |
| | 測定簡所 | | ・ 天端部の計劃点 ・ 法面部の計劃点 平副機 1点 m2 | | | | | | |
| | 測 定 基 準 | 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 2箇所。 ただし、「TSを用いた出来形管理要ただし、「TSを用いた出来形管理要質(土工編)」(平成24年3月29日付頃(土工編)は正成24年3月29日付は国官技場347号、国総公第85号)の出たにる場合は、設計図書の測点無。基準高は掘削部の両端で測定。 | 1.3次元データによる出来形管理に おいて「レーザースキャナーを用いた」 「空中写真測量(無人航空機)を用い た出来形管理要領(土工編)」, または、 た出来形管理要領(土工編)」, または、 た出来形管理要領(土工編)」, に基づ 本基準に規定する計測構度・計池密度 を満たす計測方法により出来形管理を 建施する場合に適用する。 2.個々の計測値の規格値には計測構度として主50mmが含まれている。 3.計測密度は1点/m2(平面投影面 で)の全面とし、全ての点で設計面と む)の全面とし、全ての点で設計面と む)の全面とし、全ての点で設計面と で、計測密度は1点/m2(平面投影面 が、からに存在する計測点は、標高較差を算出する。 計画密度は1点/m2(平面投影面 で。計算密度は1点/m2(平面投影面 で。1.対に存在する計測点は、機高対応にま があるいりにある計測点は、機高対向に土 5 cm 以内に存在する計測点は、機高方向に土 5 cm 以内に存在する計測点は、機高方向に土 5 cm 以内に存在する計測点は、機高方向に があるいりにある計測点は水平較差の評価から除く。 面とすることを基本とする。規格値が 面とすることを基本とする。規格値が 変わる場合は、評価区間を分割する か、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。 | | | | | | |
| | 規格値 | ±50 -200 法長-4% | 平均値 個々の | | | | | | |
| | 測定項目 | 基準高 0<5m 注長0 | 平場 標高較差 (小段 標高較差 (小段 標高較差 合む) | | | | | | |
| | 工 | 掘削工 | 掘削工(面管理の場合) | | | | | | |
| | 枝番 | 1 | Ø | | | | | | |
| | ₩ | N | | | | | | | |
| f | 短 | 3河川・海岸・砂防土工 | | | | | | | |
| - | 軸 | 01 H H | № #H | | | | | | |
| } | 鷹 | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | |

| 単位:㎜ | 摘要 | 1-2-3-3 | | | | | | |
|------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| | 測 定 箇 所 | | ● 天磯鶴の計劃点 ○ 法面轄の計劃点 中面籍 中面籍 中面語 下面語 下面語 下面語 | | | | | |
| | 測 定 基 準 | 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 2箇所。 ただし、「TSを用いた出来形管理要領(土工編)」(平成24年3月29日付1国官技第347号、国総公第85号)の規定による場合は、設計図書の測点毎。基準高は各法肩で測定。 | 1.3次元データによる出来を管理において「レーザースキャナーを用いた」に空中写真関(上工編)」、またれ、「12年の日本形像理要(出入航空機)、または、また出来形像理を実施する計測精度・計測を強合、その他本基準に規定する計測精度・計測を強合、での他ででは一個々の計測値の規格値には計測構度・1分の全面とし、全ての点で設計面とかりの全面とし、全ての点で設計面とかの一部ででで、まない。計劃は天端面と法面(小段を合む)の全面とし、全ての点で設計面とし、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1 | | | | | |
| | 規格値 | -50 100 :-2% 100 | + 均値 間 | | | | | |
| | 測定項目 | 基 準 高 ▽ w w w w w w w w w w w w w w w w w w | 来 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ | | | | | |
| | 工種 | 盛七工 | - 歴上工 (面管理の場合) | | | | | |
| | 枝番 | | 1 | | | | | |
| ŀ | | m | | | | | | |
| | 崩 | 3河川・海岸・砂防土工 | | | | | | |
| ŀ | 御 | 2 土工 | | | | | | |
| | 繩 | | | | | | | |
| L | | | | | | | | |

| vm1 | 摘 | 1-2-3-4 | 1-2-3-5 | 1-2-3-6 | | | |
|-----|---------|--|--|--|--|--|--|
| 4 | 測 定 箇 所 | | t BIIBI | | | | |
| ‡ | 測 定 基 準 | 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は2ヶ所。 | 施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のちのは1施工箇所につき2ヶ所、法の中央で測定。※土羽打ちのある場合に適用。 | 幅は、施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 厚さは、施工延長200mにつき1ヶ所、200m以下は2ヶ所、中央で測元。 | | | |
| 4 | 規格値 | 平位 105— 105— | - 30 - 30 - ** | -25 -50 -100 | | | |
| 1 | 測 定 項 目 | 選 <u>単 発</u> | せ せ 世 | 順次 t <15cm 電次 t ≥15cm | | | |
| | 工 | 歴土補強工 (補強土 (テールアル メ) 壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ゾオテキスタイルを 用いた補強土工法) | 法面整形工(雇土部) | 堤防天端工 | | | |
| 1 | 枝番 | | | | | | |
| 1 | ₩ | 4 | ശ | ∞河川・海岸・砂防土工 | | | |
| 1 |) | 3河川・海岸・砂防土工 | 3河川・海岸・砂防土工 | | | | |
| 1 | 声 | 211 | 0 HH | ∾ + H | | | |
| 1 | 票 | - 1 | - 共 浬 孋 | 1. 共演廳 | | | |
| | | ı | | | | | |

| | | 1 | | | | | | | Щ | 不心目 | '埋基準及 | い況 | 恰但 | | | |
|------|---------|---|---|--|--|--|------------------------------------|---|--|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| 単位:㎜ | 摘要 | 1-2-4-2 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 測 定 箇 所 | 2 2 | | | ・ 天端部の計測点 | の、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 学過密度 中間緒 1点 m2 | X | f | | 野街 | | | | | |
| | 測 定 基 準 | 施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長40m (又は | 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2 箇 ゴ | 所。 ただし、「TSを用いた出来形管理要 簡(+エ編) - (死時2/年3月20日社 | 政、エエ編)」(〒バズ4年の7.25日17 け国官技第347号、国総公第85号)の 規定による場合は、設計図書の測点 毎。基準高は掘削部の両端で測定。 | 3次元データによる出来形管理において「レーザースキャナーを用いた出来が終知事等(+ 1 1 2 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 2 1 | 日米だ官強愛関(エエ繙)」、まだは「空中写真測量(無人航空機)を用い | た出来形管理要領(土工編)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他ナ非維に由さずるもの書きまま。 | 一个毎十二ペステンのこの相及、この日及 を満たす計划方法により出来形管理を 実施する場合に適用する。 | 2.個々の計測値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。 | 3. 計測は平場面と法面(小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面はエカットによった。 | 傾当たり, 以エと, る。 4. 法肩、法尻から水平方向に土 5 cm | 以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。同様に、標高方向に土っcm以内にある計測点は水平較差の評価から除く。 | 5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。 | | |
| | 規格値 | ±50 | -200 | 法長-4% | | [個々の 計測値 | ±50 ±150 | ±70 ±160 | | | | | | | | |
| | 测定項目 | ☆ 単 東 著 | η ε ε σ ε σ ε σ ε σ ε σ ε σ ε σ ε σ ε σ | θ≥5m | | | 標高 | 法面 水平または (小段 標高較差 会カゥ) | j j | | | | | | | |
| | 工種 | | | | | 掘削工 (面管理の場合) | | | | | | | | | | |
| Ī | 枝番 | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | |
| ļ | ₩ | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| ľ | 節 | 4 酒 | 路土1 | 4 | | | | | | | | | | | | |
| ľ | 御 | 7 十 5 | Н | | | | | | | | | | | | | |
| | 繩 | 1 半 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| L | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | 出来形官理基準及び規格値 | | | | | | |
|-------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 単位:mm | 摘要 | 1-2-4-3 1-2-4-4 | | | | | | |
| | 測 定 箇 所 | Supplies of the state of the st | ・ 天雄略の計選点 ・ 休雨略の計選点 ・ 休雨略の計選点 ・ 大面略 1点 m2 ・ 大面略 1点 m2 | | | | | |
| | 測定基準 | | 1. 3次元データによる出来形管理に はおいて「レーザースキャナーを用いた。 「空中写真測量(無人航空機)を用いた。 た出来形管理要領(無人航空機)を用いた。 た出来形管理を領域する場合、との色 本基準に規定する計測構度・計2の合 を満たす計測方法により出来形管理を 2. 個々の計測値の規格値には計測構度・ の全面とし、全ての点で設計面と が)の全面とし、全ての点で設計面と が)の全面とし、全ての点で設計面と な)の全面とし、全ての点で設計面を な)の全面とし、全ての点で設計面を な)のを面とし、全ての点で設計面を が、あるいは規格値が、連続する一つの 面とすることを基本とする。規格値が が、あるいは規格値の条件の最も が、あるいは規格値の条件の最も が、あるいは規格値の条件の最も が、あるいは規格値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値がまた。 は、対域を が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値がまた。 は、またが、 が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるいは規格を値の条件の最も が、あるかは、 が、あるかは、 が、あるかは、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が | | | | | |
| | 規格値 | 100 100 100 | 中均値 団 タの 150 150 150 1150 150 1150 | | | | | |
| | 測定項目 | 基 準 高 ▽ 2 ← 5 m 2 ← 5 m 4 ← 5 m 4 ← 5 m 6 ← 5 m 6 ← 5 m | 光 油 (小の (小の 動 動 動 動 数 対 光 が が が が が が が が が が が が が が が が が が | | | | | |
| | 工種 | 1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 | | | | | | |
| | : 枝番 | | | | | | | |
| - | 節 | 4 | | | | | | |
| - | 章 | 2 土工 2 海野土工 | | | | | | |
| } | 響 | □共浬躔 | | | | | | |
| L | | I . | | | | | | |

| | | 1 | L | 出米形官埋基準及ひ規格値 | | | | | | |
|------|--|--|---|---|--|--|--|--|--|--|
| 単位:㎜ | 歯 | 1-2-4-5 | 1-3-7-4 | | | | | | | |
| | 测 定 箇 所 | t Historical to the state of th | | | | | | | | |
| | 測 定 基 準 施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。法の中央で測定。 ※上羽打ちのある場合に適用。 | | $d = \frac{D}{n-1}$ $D: n \times \mathbb{H} \bigcirc \mathbb{M} \xrightarrow{p}$ $n: 10 \times \mathbb{R} \times 2 \xrightarrow{p} \xrightarrow{p}$ | ゆ:鉄筋径 工事の規模に応じて、1リフト、1 ロット当たりに対して各面で一箇所以 上測定する。最小かぶりは、コンク リート標準示力書(設計編:標準7編 2章 2.1)参照。ただし、道路橋示方 書の適用を受ける橋については、道路 橋示力書(国コンクリート橋編 6.6)に よる。 注1) 重要構造物 かつ主鉄筋について 適用する。 注2) 橋梁コンクリート株版桁(PC 橋含む)の鉄筋については、第3編3- 2-18-2床板工を適用する。 注3) 新設のコンクリート株版桁(PC 橋含む)の鉄筋については、第3編3- 2-18-2床板工を適用する。 注4) 新設のコンクリート株造物(橋 深上・下部工および重要構造物である 内空断面積25㎡以上のボックスカル バート、「工場製作のプレキャスト製品 は全ての工種において対象外))の鉄 筋の配筋状況及びかぶりについては、 手破壊試験によるコンクリート構造 め中の配筋状態及びかぶりについては、 手破壊試験によるコンクリート構造 筋の配筋状態及びかぶりについては、 手破壊試験によるコンクリート構造 も中の配筋状態及びかぶり高については、 手破壊試験によるコンクリート構造 も中で直出する。 | | | | | | |
| | 規格値 | —————————————————————————————————————— | ナφ サウかっ 最小かぶり | 전 기 | | | | | | |
| | 测定項目 | 型 な t | P 開贈 d 、 | ልኤኤ ৩ t | | | | | | |
| | 校番 工 種 | 法面整形工(盛土部) | 組立て | | | | | | | |
| - | 条 枚 | വ | ▶ 黎德日★ | | | | | | | |
| - | 經 | 4 海路土工 | | | | | | | | |
| - | 肿 | oı + H | 3無筋、鉄筋コン | ングシート | | | | | | |
| ŀ | 鷹 | 1 共 | 11 共] 編 | | | | | | | |